



戦前の御本殿（西方より撮影）



### 御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております  
御祭神は四万九千七百二十八柱です。

### 『慰霊顕彰』の歴史と伝統の

### 伝承の大切さ

宮司 額田照彦

世界で猛威を奮い続けている、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まって二年が経過し、未だ終息の気配が見えず日常が奪われ、不自由な生活と用心辛抱を強いられる毎日が続いております。それに加え東欧では、ロシアのウクライナへの侵攻・侵略戦争が起こり、ウクライナでの悲惨な映像が連日報道をされその光景を目の当たりにし、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて深く感じさせられる毎日です。ウクライナの国民は、祖国や郷土、家族を守る為に一般市民も戦っているのが現状です。このように、ロシアの力と武力による現状変更の試みが強硬され、また、中国においても同様な力による圧力を強めており、冷戦後の国際秩序が崩壊しつつある危機的な状況の中、我が国においても如何にして国家・国民の生命と財産を守ってゆくのかが、また憲法改正の必要性について国民全体で議論すべき、差し迫った時期に來ていると思

ます。ウクライナの現状を見た時、自国を守る為の最低限の備え・同盟が如何に重要であるか、また国民一人一人の国を守る為の意識を高めていくことがより重要であると思われ  
ます。同時に先の大戦で国の為、また家族を思い、散華された英霊に対し、御霊の安鎮とその志を後世に継承していく為、慰霊顕彰の誠を捧げることが忘れないことが、大切であると思ひます。

その一つの例として、当神社には他社には例のない英霊に対する「慰霊・顕彰」の祭儀として「新穀献納慰霊祭」が毎年斎行されております。

この慰霊祭は、幾多の事変、特に大東亜戦争において、戦禍の中で敢然として祖国を思い、家族を案じつつ、戦場に散り戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地に亡くなられた郷土の英霊に、収穫された新穀を献じることから始まりました。

昭和二十八年食糧事情が漸く緩和された時、「愛媛県郷友会会員」皆様の温かい運動で、戦時中の食糧難やその他厳しい状況環境下に戦没された郷土の軍人軍属その他の御霊に、せめて郷土の「食糧」と、県下より集められた新穀を大前に献じ「慰霊顕彰の誠」

を捧げ毎年齋行され、爾来、本年一月十一日には、第六十八回を迎えるに至った慰霊祭です。

最近では会員の高齢化に加えて、世情の變化等により、初期の頃とはあり様が徐々に変わり、献穀、奉賛に減少の傾向が見られますが、「時勢の趣向」はやむを得ないことでもあり、「伝統と歴史」に重きを置きかつ時代を考慮しつつ「奉賛継続」の歴史を重ねていくこそが、真に意味があることと思われまます。この英霊の「慰霊顕彰」の形式が、時代により変わっていったとしても、未来永劫に継承し、その歴史と伝統を積み重ねていくことが、国家の繁栄に繋がっていくより大切なことと確信致しております。

末筆ではございますが、時節柄、御遺族・崇敬者皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を心よりお祈り申し上げます。

## 日本から近い外国

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 愛原 章

韓国、中国、ロシアが近い国ですが、あなたならどの国へ行ってみたいと思いますか。私は中国です。

何故かといいますと、ロシア革命で、皇帝のニコライ二世一家を惨殺した、血生臭いに

おいにするロシアには行きたくありません。世界中がコロナ、コロナで大変な時期に、ロシアはウクライナに侵攻し、重要な施設を破壊し、市民からも大勢の犠牲者が出ています。停戦の交渉が進展することを祈るばかりですが、未だ戦争は続いています。自国の体制維持に自信のないプーチン氏が軍隊を動かして暴れているのですが、今も昔も変わらぬ国です。

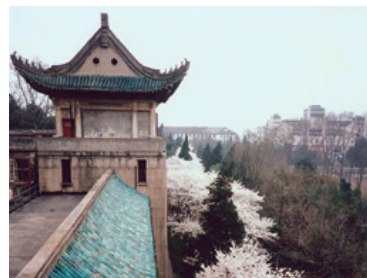
トランプ氏のアメリカ第一もどうかと思いますが、代わったバイデン氏を、ロシアは少し舐めているのではないかと思います。

それで韓国ですが、自国の歴史を消してしまつて、都合のいいところだけを強調する国には行きたくありませんが、それでも一度だけ行ってみたいと思つたことがあります。それは、アマチュア無線で知り合った友人がいたからです、もう彼とは音信不通となりましたので、近くて遠い国となっています。

そこで中国ですが、私は日本遺族会の慰霊友好親善事業に参加して、平成九年三月に中国へ行ってきました。

武漢にある武昌大学が、戦時中は陸軍病院で、父はそこで亡くなりました。新型コロナウイルスのせいでテレビを見る時間が多くなり、中国のドラマを見る時間が長くなって、時々、そのドラマに私が見た武昌の風景が出てきます。風光明媚といいますが、湖水に囲まれた綺麗な場所、桜の名所でもあります。ポツポツ桜が咲く時季となりますので、今年も大勢の花見客が集まってくるのではな

いかと思います。ですがコロナ禍で、往来が難しくなっているかもしれません。



さて、上海で案内役のガイド（公安・警察）と合流し、始まった慰霊友好親善事業でしたが、思想家の孔子や孟子を育んだ中国だったので、一度は行ってみたいと思つていたので、行って良かったと思つています。そして、中国には四千年の歴史があると、何度もガイドから聞いたのを覚えていますが。

あれから二十五年になります。今の中国は如何なものかと思つています。ロシアと同じ独裁国家は好きになれません。

昔読んだ「孟子の話」に、民と楽しみを同じくし、百姓と悲しみを同じくすることこそ、王道の根本であるとか、自分のためになるのであれば、社会は成立しないとも書いてあります。習氏はこれを、どう解釈しているのでしょうか。

四千年の歴史が泣いているのではないかと思います。

祈念史料室 みゆきだより (四)

戦争の教訓を次世代へ  
フィリピン 父の戦死

松山市遺族会  
副会長 正 金 郎

私は一九四三年三月二十九日生まれ、この三月で七十九歳。戦中派で二歳の時に父はフィリピン・ルソン島マウンテン州バギオの山奥で戦死したので、父の顔も記憶にはありません。八幡浜市川上町白石のみかん農家の次男として生まれ、二歳上の兄と二人兄弟でした。父は八人兄弟姉妹の長男で、当時は養蚕飼育、芋・麦・野菜・みかん栽培、鶏・牛・ヤギの飼育、魚は網元に手伝いに行く、半農半漁の貧しい「自給自足」の生活でした。大家族の生活で、私はもっぱら祖父の世話をすることが多く、井戸から水を運び五右衛門風呂焚き、足踏み、ひげそりなどの身の回りの世話が日課でした。祖父の手ほどきでスイカを作り、母とリヤカーで二時間往復し、販売する辛い貧困の中で精神力を鍛えられました。



マウンテン州バギオの慰霊祭 (2008年、フィリピン・ルソン島)



「2008・ルソンの会」全国のフィリピン遺児

り、一九九六年には第三十五回農林水産祭で川上共選が「天皇杯」を受賞する優秀産地になり、誇りに思っています。

父の遺言文の中に「兄弟、子どもの教育についてはできる限りのことをしてください」とあり、祖父、祖母、母はその言葉どおり立派に教育をしてくれ、私共や子ども、孫まで高校、大学に行き、今ではそれぞれが社会人として仕事に精進していることは、父の遺言のお陰だと感謝しています。

二〇〇八年十一月には、日本遺族会主催の「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」として、フィリピン訪問に参加しました。太平洋戦争の激戦地・フィリピンで、日本軍は五十万人超とおびただしい数の死者を出しました。父は一九四五年三月十三日、フィリピン・マウンテン州バギオの山奥で戦死、三十二歳でした。バギオで戦死した遺児仲間

と慰霊祭を行い、「父さん、日本へ一緒に帰りましょう。残された私たちは戦争をなくし、世界平和のために一人ひとりができることをやります。天国から見守ってください」と参加者全員が大きな声で訴えました。

戦争の悲惨は、わずか二年でフィリピン人が百十二万人死亡していたこと、アメリカ兵も五万人の戦死者、日本兵五十万人と、合計百六十七万人の命が失われたことです。そして戦争の最大の悲劇は現地の住民であり、子どもたちです。私たちは戦争の残酷さを現地で聞かされました。「人が人を殺すような悲惨な戦争は二度としてはならない」ことを誓い合い、バギオで慰霊祭をした仲間の有志が話し合って「二〇〇八・ルソンの会」を結成しました。会長は静岡の宮島伸明さん（現在七十八歳）、他は山形、静岡、山梨、長野、富山、愛知、大阪、兵庫、広島、熊本、徳島、愛媛からの二十三名。毎年、持ち回りで各県の護國神社を訪問し、懇親会では、各県の遺族会活動を報告、世界の戦争をなくし、平和構築のために何ができるかの情報交換を行っています（この二年はコロナ禍で中止）。二〇一〇年『平和の種をまく』の講演を高山良二さんから聞きました（国際地雷処理・地域復興支援の会・理事長、三間出身、現在七十四歳）。命がけでカンボジアでの地雷処理活動をしている姿に感動し、寄附金活動、講演会、募金活動などを手伝うことにしました。二〇一三年には、遺児の保木山榮満さん



(愛媛塗機社長) など四人でカンボジアの地雷処理現場を訪問し、高山さんの自立精神に基づく「住民参加型」の地雷処理活動や地域復興支援方針に強く共感し、保木山さんと共に現在も手伝いを続けています。



カンボジアで寄附金による学校建設(2013年)

カンボジアで地雷処理を  
高山良二さん訪問。  
地雷処理した面積は279  
ha(2013年)

一九七五年にポル・ポト独裁政権で教養の高い文化人が百万人以上も虐殺されるといふ、世界の戦争歴史に残る悲惨な出来事がありました。その戦争で残置された地雷や不発弾がいまだに何百万個もあり、尊い命や手足を失っている現況に、高山さんは、自衛官として赴任したカンボジアPKO(国連平和維持活動)の任期が終わり、自衛官を退官後にカンボジアで最も地雷や不発弾が多い一番貧

しいタサエン村で活動を始めました。「人間が犯した過ちは人間が正さなければならぬ」という思いから、その過ちを子や孫の代まで放置してはならない」との決意から、誰も真似のできない地雷処理の専門技術を生かすことを決意したそうです。

高山さんのエネルギーシユな行動力と発信力(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌)には目を見張るものがあり、全国の支援者も今や数千人となり、NPO法人としてもトップクラスに位置づけられています。今年十周年事業の一環として『平和の種になりたい』という百十四ページのカラー小冊子を発刊しました。興味と関心のある方はぜひ読んでほしい小冊子です。

松山市遺族会・高浜地区の会長を引き継いで十年、会員も当時より半減しました。現在二十八名、県遺族会報を年二回配布、年会費を集金しています。松山市が力を入れている「平和の語り部」は遺族会にとっても重要な役目だと思います。特に好奇心旺盛な小学四〜六年生が戦争や平和についての問題意識を持つことは、次世代にとって極めて大事なことです。

高山さんの講演も、小学生から戦争や平和についての反響が大きく、評価の高い活動の一つになっています。遺族会も一人ひとりができる範囲で戦争や平和について「発信力」を発揮していくことが求められていると思います。

## 第六十八回 新穀献納慰霊祭

愛媛縣護國神社

令和三年度(第六十八回)新穀献納慰霊祭は一月十一日(火)午前十一時より、護國神社で厳かに執り行われた。

県郷友会永井会長が祭主となり斎行された。当日は寒冷えの厳しい中、新型コロナウイルス感染症蔓延で自粛開催となり、ごく一部のご来賓、団体代表、会員代表四十名で斎行した。

県下会員、県民の御協力により拠出されたお初穂料・新穀を奉納し、英霊を御慰めした。今年度は前年度に近い集荷を達成することができ、御協力戴いた県民の皆様及び献納に御尽力戴いた会員に感謝申し上げます。

### 祭文

本日、愛媛縣護國神社の大前において、ご来賓及び郷友会会員多数ご参列のもと第六十八回新穀献納慰霊祭が、厳かに執り行われるにあたり郷友会を代表して謹んで祭文を奏上致します。

この献穀運動は、幾多の事変、特に大東亜戦争において、戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地に亡くなられた郷土の英霊の皆様方に収穫された新米を献じることを企画し、日本郷友連盟の発足する三年前の昭和二十八年に始まりました。

今日の豊かな生活を享受できるのは尊い英

靈の犠牲の上であり、感謝の誠を捧げる慰霊  
顕彰の伝統行事として会員の皆様の協力を得  
ながら続けて参りましたが、今では定着され  
ております。

今後永久不滅の愛のある愛媛県の誇れる  
伝統行事として継続実施する決意を新にして  
おります。

しかし戦後七十六年も過ぎ、会員の高齢化  
による活動の衰退、減少が著しく、戦争を知  
らない世代である七十才以下の国民が八割以  
上を占めて、慰霊顕彰の理解すらない今日、  
新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し  
事業の制約を受け、この対策に我々も苦慮致  
しております。

わが国は他国に比べ最小限の感染に止まっ  
ていますが、収束の見通しが立ちません。

国内外の難問に対応するためどのような対  
策を講じていくべきかと苦慮する時代を迎え  
ております。

私ども日本郷友連盟は軍歴がなくとも誰で  
もが入会できる郷友会であります。

自分の国は自分で守るという国防意識の高  
揚、英霊・殉職自衛官の慰霊顕彰、栄光ある  
歴史及び伝統文化を継承するという、日本郷  
友連盟の理念でもある三点の具現実行を通じ  
て組織の強い活性化の維持に努めながら、先  
輩としてこの事業を語り継ぎ、継承・存続し  
なければならぬと痛感致しております。

今後におきましても私どもは御祭神四万九  
千七百二十八柱の方々のご加護を戴きながら  
この事業を続け、百四十万県民のやさしさと

パワーを結集し豊かで住みやすい郷土造りに  
専念努力する所存であります。

また自衛隊に関しては、最近の近隣諸国の  
動静は予断許しがたき不穏な行動が多く憂慮  
される中、益々のご奮闘を期待すると共に、  
その活動に対し限りなく最大限の支援を続け  
て参ります。

終わりになりましたが、在天の英霊どう  
か、御遺族の皆様をはじめ県民全てにご加護  
を賜り、安らかにお鎮まり下さいますよう祈  
念し祭文と致します。

令和四年一月十一日

愛媛県郷友会 会長 永井 之保  
以上

式典終了後、宮司謝辞・献穀集荷実績報告  
を行った。

新型コロナウイルス感染症オミクロン株蔓  
延のため、記念撮影は中止し、お直会も中  
止し弁当を戴いて散会した。  
会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

『戦友団体等による慰霊祭』

令和三年

十月二十四日 公益社団法人愛媛県隊友会

十月三十日 愛媛偕行石鉄会戦没者 (合同)

戦争裁判殉国者

〈永代祭祀料奉納者御芳名〉

令和四年二月

新居浜市泉池町

青野 照子様

〔奉納者並びに寄贈図書〕

一、「会報」特攻」

東京都千代田区飯田橋

公益財団法人

特攻隊戦没者慰霊顕彰会 様

一、「愛知県下英霊社忠魂碑等調査報告書

(第六輯)

「愛知縣護國神社年表追録」

名古屋市中区三の丸

愛知縣護國神社

宮司 高羽 伸浩様

令和三年(十月)秋季慰霊大祭奉仕者 (敬称略)

献茶奉仕者 (茶道裏千家淡交会松山支部)

淡交会松山支部

佐野 宗 知

淡交会松山支部

浅井 宗 直

献花奉仕者 (愛媛県華道会)

聴春流 松山市勝山町

大井 緑

聴春流 松山市祝谷

福田 倫 子



# 伊予にゆかりの万葉植物

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原茂

伊予にゆかりの万葉植物と言えば「おみの木」と「やまたづ」がある。

まず「おみの木」を詠んだ万葉歌は山宿祢人の神の湯(男性浴室)の湯釜に刻まれている長歌である。山部赤人は神亀元年から天平八年まで宮廷歌人として活躍した人物である。実は山部の姓は伊予の国久米郡の久米部小磯が「山部」姓を賜ったことに由来していると、古事記や日本書紀にあり、伊予にはゆかりの深い歌人である。

山部宿祢赤人至伊予温泉作歌一首並短歌  
 すめろぎの かみのみことのしきいす 国のごとく 湯者霜  
 皇神祖之 神乃御言及敷座 国之尽 湯者霜  
 さわにあれども しまよまの よろしきこと ことしかも 伊予能高  
 波爾雖在 島山之宜国跡 此極疑 伊予能高  
 嶺乃 射狭庭乃 崗爾立之而 歌思 辞思為  
 ねの いさのわたの おかにたたして うたおもい 辞思為  
 師 三湯之上乃 樹村乎見者 巨木毛 生継  
 し 三みゆのへの上乃 樹村乎見者 おみのもも 生継  
 にけり 鳴鳥之音毛不更 退代爾 神左備  
 爾家里 鳴鳥之音毛不更 退代爾 神左備  
 将往 行幸処(卷三(三三二二))  
 ゆかむ 行幸処(卷三(三三二二))  
 (返歌) 百式紀乃 大宮人之 鮑田津爾 船  
 のりしけむ 年之不知久  
 乗将為 年之不知久

「歴代の天皇がお治めになってきた日本の国のあちこちに温泉は沢山あるけれども、その中でも伊予の温泉は、瀬戸内の島々の麗しい所にあるというので、昔、聖徳太子が来られ、険しい伊予の高嶺続きの伊佐庭の岡(現在の道後公園)にお立ちになって、歌をお作りになり、碑文の文章をお考えになったことがある。その温泉付近の森や木立ちを見ると、かつて舒明天皇が行幸された時の話に伝えられるモミの木は、生い継いで今も茂っている。また鶺鴒(イカルガ)や此米鳥(シメ)が鳴いていて、昔に変わらない景色である。このように、たびたび皇族が来られたこの温泉は、このまま遠い後の世までも神々しい土地柄として栄えるであろう」と、道後温泉を褒め称えた歌である。

返歌は「百式記乃大宮人之熟田津爾船乗將為年之不知久(もしきのおおみやびとのにぎたつにふなのりしけむときのしらなく)」このように、昔々の大宮人の船出を回想しての短歌である。ところが、残念なことにこの歌が道後温泉の湯釜に彫られただけで、松山や道後の街のどこにも見当たらない。この歌碑の建立は、先人たちから私たちへの宿題である。できれば放生園の辺りにでも欲しいものである。

舒明天皇御来浴の話は舒明十年(六三九)皇后と共に伊予の湯に行幸された時、お宿の前のムクとオミの木に稲穂を掛けてイカルガやシメ鳥を飼育したという説話の事である。また、「やまたづ」は古事記や日本書紀に

ある允恭天皇の皇太子木梨輕皇子と、同母妹の輕大郎女皇女が互いに愛しあつた恋物語に由来している。

当時は異母兄弟の結婚は認められていたが、同じ母の場合は御法度であった。そのために輕皇子は捕らえられて伊予の湯に流された。残された輕大郎女は「君が行き日長くなりぬやまたづのむかへを行かむ待つにはまたじ(卷二(九〇))」と詠み、兄を慕って伊予に向かった。諸説あるが古事記によれば、最後は伊予の湯に近い土地で心中したと伝えられている。その伝説の池を姫池と呼び、池の堤に輕之神社が建てられ、その奥の山裾には二人の比翼塚が祀られている。比翼塚とは愛し合つて死んだ男女や心中した男女、仲の良かった夫婦を一緒に葬った塚・墓のことである。



輕之神社▶



比翼塚▶



ある。そこには二人の歌碑も建っていて、歌碑には軽皇子の「天飛ぶ鳥も使いぞ鶴が音の聞えむ時は我が名問はさね」と並んで大郎女の先の歌が刻まれている。余談ながら側にはさらに里人の歌碑があり「天さかるひな乃伊予路に永遠の愛に生きたまふ二柱の神」(八木米蔵)とあった。何れも里人たちの熱い想いが伝わってくる。なお何時のころからかこの辺り一帯は大郎女に因んで姫原と呼ばれるようになったという。

さて「おみの木」は今の「モミ」、「やまたづ」は「ニワトコ」とされている。

「モミ」の木はマツ科の常緑大高木で山地に生え、直立して高さ三十m〜六十mにもなる。葉は長さ二〜三cmの細い針形で、若木や日当たりのよい枝には二列に並んで着く。松山でも以前は旧家の庭でよく見かけたが、今はあまり見かけなくなった。

「ニワトコ」はスイカズラ科の落葉低木。山野に普通に見られる落葉低木。高さは三〜九mで成長は早い。枝の質は柔らかいが、髓は褐色で太い。早春諸

花に先立って新芽を出し、枝端に白色小花を無数につけ春告花の感がある。漢名は「接骨木」乾燥花は「接骨木花」として、或いは「莖葉樹皮の煎じ汁」として愛用されてきた。松山地方でも漢方薬店で重用されていたという。

ところで鳥のイカルや、シメも「愛媛の野鳥・あなたの出会った鳥、出会う鳥」に紹介されている。ランク六のうちのランク三「郊外の農地ないし山麓の雑木林や林縁・谷筋・川の近くなどで見られることの多い鳥」の中に入っている。道理で最近神社の境内で、「シメドリ」らしき小鳥に出会い、これも何かのご縁かとしみじみと眺めていた。



正式参拝

☆令和三年十月二十日

堀江町遺族会

代表 光宗 浩三 様

計七名

☆令和三年十月二十九日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷 勝嗣 様

計三十名



☆令和三年十一月十五日

愛南町遺族会

会長 宮谷 敏彦 様

計十名

☆令和三年十一月十五日

大和ツアーin愛媛

講師 高橋 教恵 様

代表 欄所 友子 様

計五名

☆令和三年十二月二日

松山市遺族会役員会

会長 西村 利明 様

計三十名

☆令和三年十二月十二日

煤払式

ボーイスカウト功労賞授与式

ボーイスカウト松山第十六団

団委員長 小島 伸治 様

計三十名

☆令和四年一月九日

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂 様

計二十名

☆令和四年二月十一日

日本会議愛媛県本部

会長代行 横田 弘之 様

計九名

☆令和四年三月十日

松山市遺族会役員会

会長 西村 利明 様

計三十名

☆令和四年三月二十五日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷 勝嗣 様

計三十名

## 愛媛縣護國神社英靈顕彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。  
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國  
神社英靈顕彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。  
お問い合わせは、下記迄お願い致します。

愛媛縣護國神社 英靈顕彰会事務局 TEL (089) 925-2353

### 英靈顕彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神札	御守	紙札	木札(小)	年1回発送
社報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顕彰石彫	×	×	○	

そ  
の  
他

新  
年  
特  
別  
祈  
禱

社  
合  
家  
交  
厄  
七  
初

運  
格  
内  
通  
除  
五  
宮

隆  
祈  
安  
安  
け  
三  
詣

昌  
願  
全  
全  
詣  
詣

御  
祈  
禱  
(お  
祓  
い)  
の  
御  
案  
内

当社では各種祈願を随時お受けしております。  
時間等は社務所へお問い合わせ下さい。